家庭数で、上学年に配付

保護者の皆様

令和　６年　３月１２日

上勝小学校長　川村　恭弘

令和５年度「学校評価」に関するアンケート結果について（ご報告）

余寒の候、保護者の皆様におかれましては、ますますご健勝のことと拝察いたします。日頃は、本校教育並びにＰＴＡ活動にご理解とご協力をいただき、厚くお礼申しあげます。さて、１月に「学校評価に関わるアンケート」について、お忙しい中、ご回答いただき誠にありがとうございました。そのアンケート結果から顕著なものを一部ご報告します。なお、今年度よりアンケート項目並びにアンケートの見方に変更があります。ご了承ください。

本校では、アンケート結果や、お寄せいただきましたご意見等をもとに今年度の学校運営、教育活動等を検証することで、次年度に向けての改善や家庭と連携した学校づくりを行い、子どもたちのよりよい成長に向けての取組を進めていきたいと考えています。ぜひ、今後の家庭教育の参考にしていただければ幸いです。これからも信頼される学校づくりをめざして一層努力をしていきたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

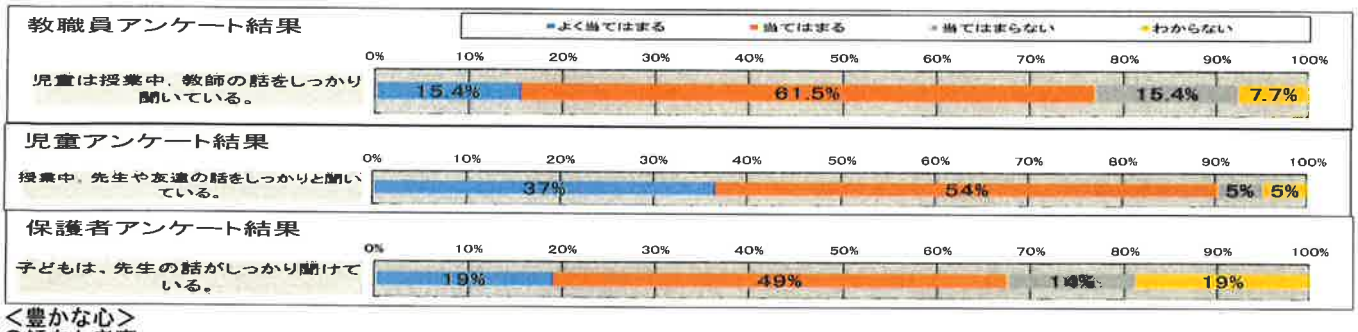
なお、教職員アンケートは普段授業を担当していない教職員、学級担任外の教職員の回答を含んでいます。

Ⅰ　集計結果より

＜確かな学力＞

○傾向と考察

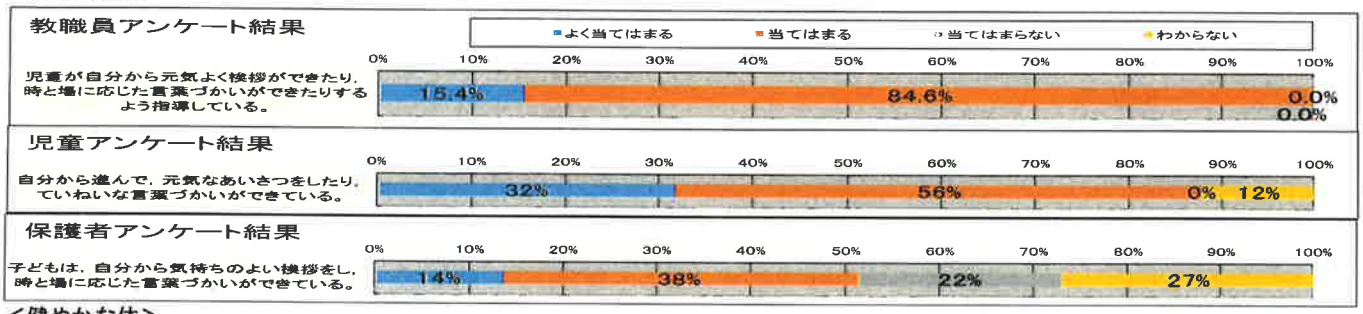
「児童は授業中、教師の話をしっかり聞いている」に対して「よく当てはまる」と答えた職員が１５．４％、肯定意見（「よく当てはまる」と「当てはまる」の合計）が７６．９％である。言葉は違うが、同様の質問に対して児童は３７％と９１％、保護者は１９％と６８％であった。３者にこれだけの認識の違いがあることを示している。このことから、児童は、教員、保護者が思っているより話を聞いてると感じ、満足していることが分かる。話の内容を全体にしっかりと伝えるためには、話の内容が正確に伝わるような工夫と、伝わっているかどうかを本人に自覚させる工夫が必要と言える。



＜豊かな心＞

○傾向と考察

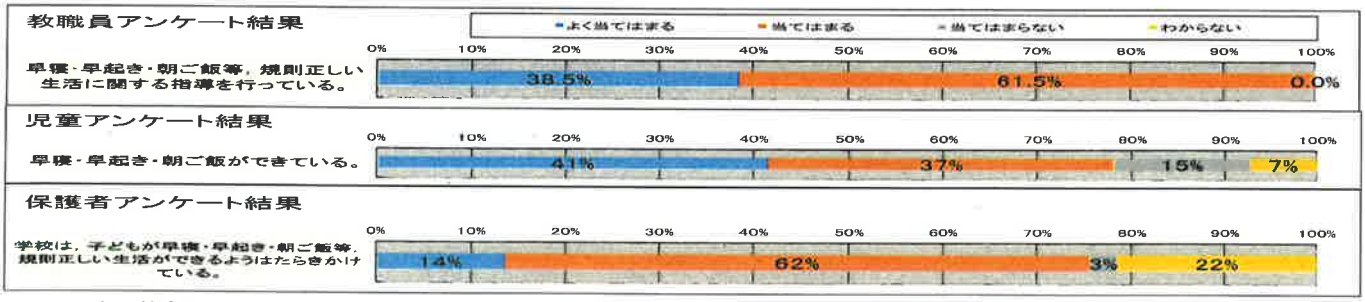
「あいさつ」に関する質問で「よく当てはまる」と答えた教職員が１５．４％、児童は３２％、保護者は１４％で教職員と保護者がほとんど同じ数値であった。教職員は同じぐらいの数値であったが、児童は倍の数値を示している。このことは、学校では挨拶ができているが、家庭を含む学校外では、挨拶ができていないと考えられる。学校生活の場面では、挨拶をする場面が分かっていると言えるだろう。学校をはなれても時と場に応じた挨拶ができるように児童になって欲しい。



＜健やかな体＞

○傾向と考察

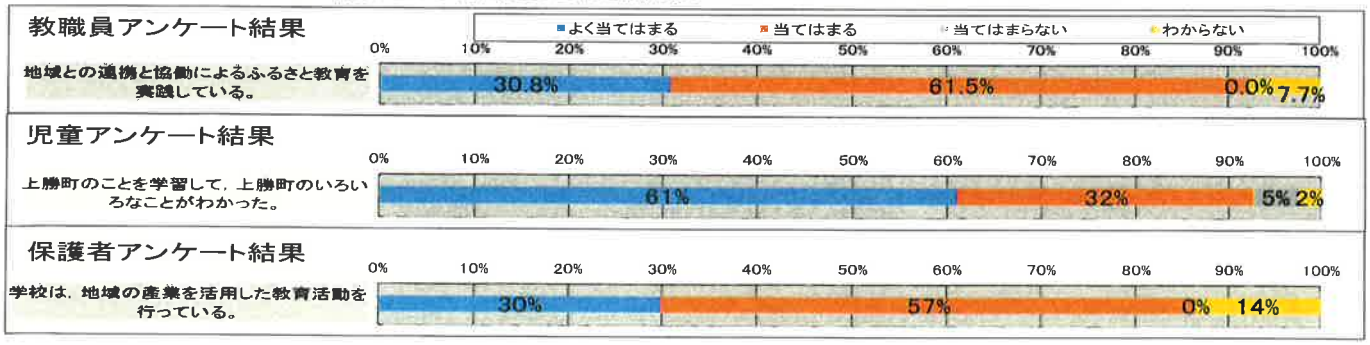
「早寝・早起き・朝ご飯等規則正しい生活」に関する質問で「よく当てはまる」と答えた教職員が３８．５％、児童は４１％、保護者は１４％と３者で違いが見られた。「よく当てはまる」と答えた保護者以外に２２％の保護者が「わからない」と答えている。保護者への啓発と家庭の協力が必要であると言える。



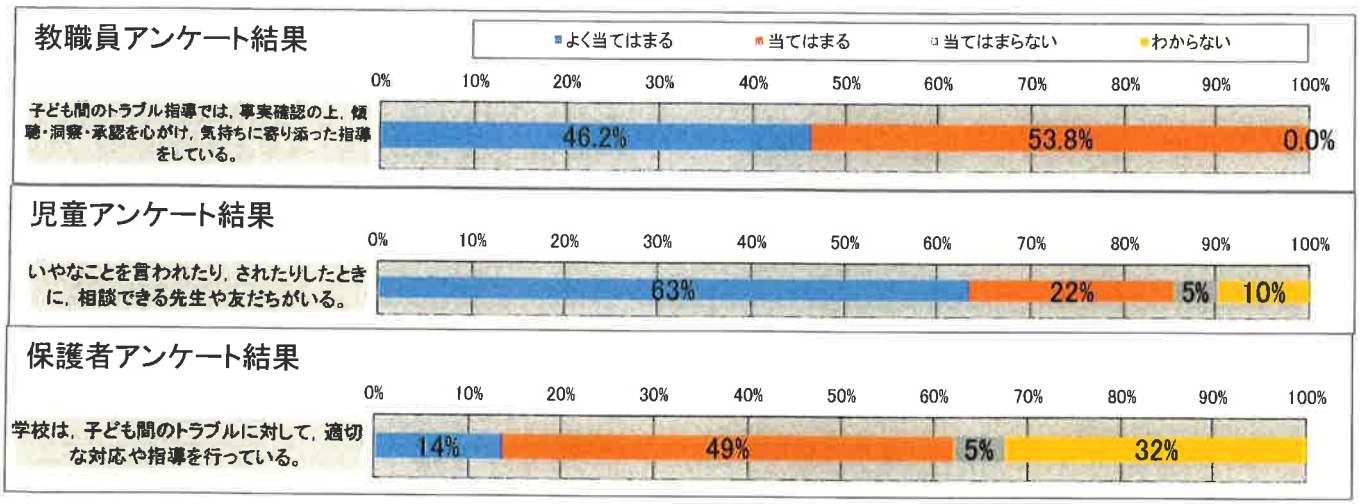
＜ふるさと教育＞

○傾向と考察

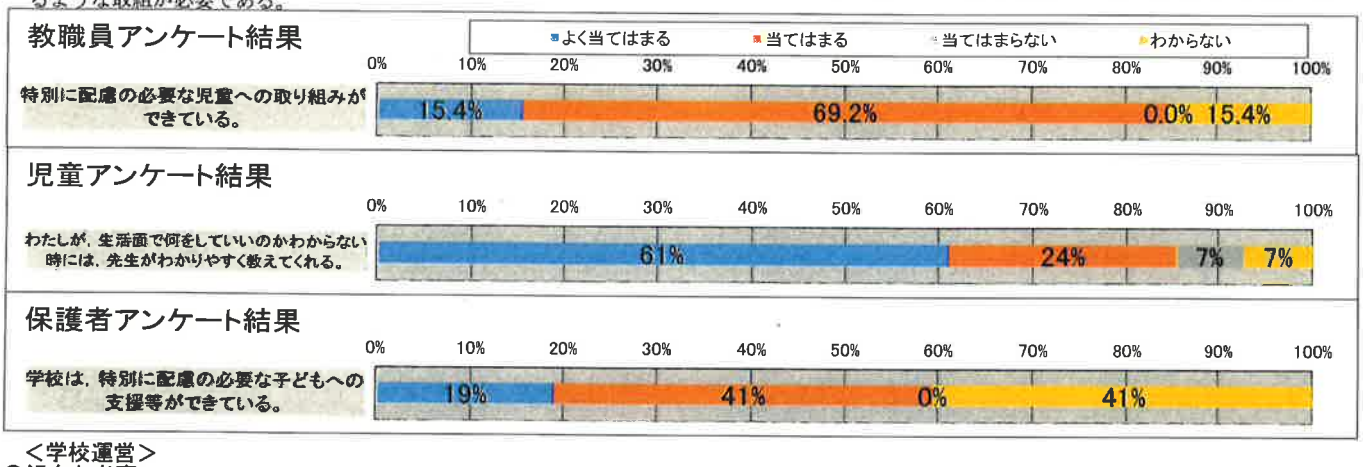
「地域との連携」に関する質問で「よく当てはまる」と答えた職員が３０．８％、児童は６１％、保護者は３０％で教職員と保護者がほとんど同じ数値であった。教職員のふるさと教育に関する実践が児童にも保護者にもよく伝わっていると言えるだろう。特に児童へは肯定意見（「よく当てはまる」「当てはまる」が教職員９２．３％、児童９３％と教職員の取組や思いがしっかりと届いていると言える。



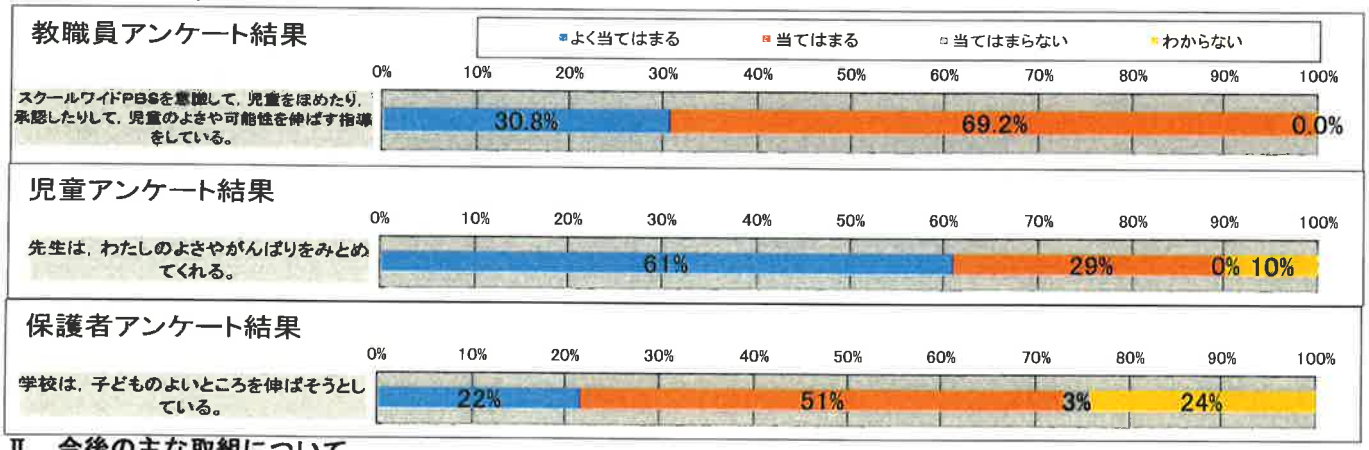
＜生徒指導＞
○傾向と考察
「児童間トラブルの指導」に関する質問で「よく当てはまる」と答えた職員が４６．２％、児童は６３％、保護者は１４％であった。このことを受け、教職員の取組が保護者へ伝わるように、また児童が納得するように生活と結びつけた指導が必要であると言えるだろう。



＜特別支援教育＞
○傾向と考察
「配慮の必要な児童への取組」に関する質問で「よく当てはまる」と答えた職員が１５．４％、児童は６１％、保護者は１９％であった。児童の教職員への信頼は強い傾向にあると言えるだろう。３者とも「わからない」の割合が多い傾向がある。教職員への啓発と、児童、保護者へ伝わるような取組が必要である。



＜学校運営＞
○傾向と考察
「児童の」に関する質問で「よく当てはまる」と答えた職員が３０．８％、児童は６１％、保護者は２２％であった。肯定意見が９０％であることから、ほとんどのの児童は、教職員から認められることに喜びを感じていると言える。また、保護者の２４％が「わからない」と答えていることから、児童の学校での生活や教職員との関わりが保護者に十分伝わっていないと考えられる。保護者に学校での生活が見えるような工夫が必要であると言える。



Ⅱ　今後の主な取組について

○学校の取組が保護者に伝わるような工夫が必要だと感じている。その方法として、情報発信、活動の充実を図っていきたい。具体的には①学校の情報を学校だより、ホームページ等で積極的に発信する。②児童が、学校での出来事やできるようになったことを家庭で話したくなるような教育活動を行う。③児童が、楽しみで心待ちにするような教育活動、授業を行う等
○「早寝・早起き・朝ご飯」「食育」に関しては、苦手なものでも食べられるよう家庭での協力が必要となる。毎日の生活の基本となることなので、ご協力をお願いしたい。
○保護者の「わからない」を減少させるための「わかりやすい」「みえる」学校経営を目指す必要がある。

＜学校運営協議会より＞
○生徒指導の児童アンケート結果で、「いやなことを言われたり，されたりしたときに，相談できる先生や友だちがいる。」に６３％の児童が「よく当てはまる」と答えているのはいい傾向である。信頼関係がよく築けていると言える。
○「よく当てはまる」「当てはまる」の肯定意見を見ると教職員の取組が児童へよく伝わっていることがわかる。逆に、教職員に「当てはまらない」「よくわからない」という回答が見られるのは、自己評価が厳しいためと思われる。もっと、自信をもって取り組んで欲しい。
○少人数であるため、アンケート結果をパーセントで表示するのには１人の割合が大きいのではないか。

皆様のご協力により、児童の学び・学校教育活動を継続することができました。今後も全教職員が一致団結し信頼回復に努めてまいります。保護者の皆様におかれましては、変わらぬご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。